

【科研費応募支援ニュースレターNo.14】 発信日 231124 (金)  
タイトル\_プレプリントサーバー

教育職員各位

URA 高木敦子

いつもお世話になり、感謝申し上げます。URAの高木敦子です。  
近年の論文出版の変化には目覚ましいものがあると感じています。本日はそのような一つである、プレプリントサーバーについて書いてみます。

プレプリントサーバーとは査読前論文を公開した Web サイトのことです。1991 年当時ロスマス国立研究所の研究者だった物理学者のポール・ギンスバーグ氏が、物理学分野のプレプリントを保存しておくためのサーバーとしてはじめたものです。査読に異常に時間がかかることがある数学・物理分野、日々、進歩の激しい IT 分野では、査読の間、論文のデータが公開されないことは、大変な損失を引き起こすと考えられ、まず、プレプリントサーバーへ投稿するのは普通のことのようです。

現在では、多くのプレプリントサーバーが世界中で公開されています。  
さらに COVID-19 の広がりのため、緊急を要する課題についての迅速な公開が必要となり、この流れは加速されました。もちろん、医学系の研究論文のプレプリントサーバーである 2019 年から立ち上げられた「medRxiv」では、人の生命に関わるものであるため、他のプレプリントサーバーよりも厳格な投稿規程となっています。

このような流れの中、科学技術振興機構(JST)によって、日本で初めての本格的なプレプリントサーバー「Jxiv (ジェイカイブ)」（「x」はギリシア文字で「カイ」と読む）が 2022 年 3 月から運用開始となりました（資料 1）。英語はもちろん日本語でも投稿でき、分野を問わず投稿可能です。日本人からの投稿のみならず、プレプリントサーバーがカバーできていない分野の海外からの投稿も期待されます。

プレプリントサーバーのメリットとデメリットを、「投稿する場合」と「読む場合」に分けて、以下に示します。

メリットとしては、つぎのものがああります。

投稿する場合：

- ・ 査読にかかる時間なしで、公開できる。
- ・ 査読における不公正を被りにくい。
- ・ 研究アイデアや独創性への優先権を主張できる。
- ・ 幅広い研究者からのコメントをいただけるので、これらを参考にして、論文を改訂し、査読誌へ投稿できる。
- ・ たいていの場合、投稿費用がかからない。
- ・ 様々な分野の人に読んでもらえる。

- ・ほとんどの論文には DOI（デジタルオブジェクト識別子、世界共通の論文番号）がつく。

読む場合：

- ・新鮮な情報が迅速に入手できる。
- ・読むための費用がかからない。

デメリットとしては、つぎのものがああります。

投稿する場合：

- ・自分だけが知っているというメリットがなくなる。
- ・出し抜かれる(Scoop)危険性を感じる。Scoop とは、査読前論文を読んだ似た研究を行っている研究者が、先に査読誌へ投稿してしまうこと。プレプリントは先取権を主張できるとのことで、問題ないと思われる。
- ・いくら引用されても、被引用回数としてカウントされない。インパクトファクターにも影響しない。
- ・査読誌に投稿するときに、プレプリント公開していた場合、雑誌社によっては、受け入れられないこともあるので確認が必要である。また、第 1 候補の査読誌で不採択になることもあるので、第 2、第 3 候補の雑誌の投稿要領も調べておく必要がある。

読む場合：

- ・査読がされていないので、まちがった情報であることもある。（査読がされていても内容は必ずしも正しく、再現性があるとは限らない。）

自分が所属している分子生物学会の、プレプリントサーバーに関する、2022 年のアンケートが公開されています（資料 2）。研究者の思いがいろいろ自由記載されていて、たいへん興味深いです。1 年前のアンケートですので、現時点では思いは変化しているかとも思いますが。

査読における不公正に関しては、自分も経験があります。1990 年代に査読有英文雑誌に投稿したときに、自分の査読中論文が海外のラボで回っていたということ、留学から帰国した研究者から伺いました。また、以前の所属のラボで、日本から外国雑誌に投稿した論文の査読期間が異様に長く、採択されたときには、似た内容のものが同じ巻号にのっていたということも聞いたことがあります。

プレプリントサーバーに投稿するかしないかは、いろいろなお考えがあるかと思えます。一方、無駄な時間（まだ査読論文にはなっていないが、すでに誰かが行った研究をしてしまう時間）の削減、無駄な研究費出費の削減にも貢献する可能性があると考えられるため、情報収集のためにはプレプリントサーバーの積極的なご利用もよいのではないかと考えています。

<参考資料>

資料 1 Jxiv ガイドライン

[https://jxiv.jst.go.jp/jxiv\\_docs/ja/Jxiv\\_guidelines\\_ja.pdf](https://jxiv.jst.go.jp/jxiv_docs/ja/Jxiv_guidelines_ja.pdf)

資料2 分子生物学会が2022年にとつたアンケート等の情報

<https://www.mbsj.jp/admins/committee/ethics/doc/2022/20221202slides.pdf>

アンケートの詳細は上記の27頁のサイト（アドレスは下記）をクリックしてください。

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1111/gtc.13015?domain=author&token=KZ5HIIXBJK4GCJUR4FA7>

自由記載部分は上記論文の Supporting information のサイト（下記）にあります。  
（和文は英文の後にあります）

<https://onlinelibrary.wiley.com/action/downloadSupplement?doi=10.1111%2Fgtc.13015&file=gtc13015-sup-0001-Tables.pdf>

本学 web サイト【研究・社会連携»科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援や研究支援に関する情報が掲載されています。

[https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid\\_scientific\\_research.html](https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html)  
【ID: kenkyu パスワード : sanken3001】

これからも、科研費申請や研究に関し、情報共有のためメール発信させていただきたいと思っております。気軽にお付き合いいただき、なにか少しでも先生方のお役に立てればと願っております。ご不明点、ご意見、ご希望などございましたら、メールで URA 高木敦子（[8atakagi@cnt.osaka-sandai.ac.jp](mailto:8atakagi@cnt.osaka-sandai.ac.jp)）まで、お伝えいただきますよう、お願い致します。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

失礼致します。